

インド法人 デリー、バンガロール、ムンバイ、プネー ～次代の波を乗り切ろう～



TTTI India President
Mr Sunny Malhotra

■ ごあいさつ

私達インド法人は、半導体サプライチェーンに高い付加価値を提供し続けるネクスティ エレクトロニクスの一員であることに誇りを持って邁進しています。当社は、急速な経済発展を続けるインドにおいて、慎重かつ確実に、ディストリビューターからソリューションプロバイダーへと進化を続けてきました。

成長を続けるインドの経済状況は、有望な市場ではありますが、固有の課題も少なくありません。

当社では、設備面はもとよりインド市場に適應したあらゆる準備を整えています。

私達は、「BE LOCAL AND THINK GLOBAL (グローバルに考え、ローカルで行動する)」を信念としており、デマンドクリエーションにフォーカスし、単なるサプライヤーではなく、あらゆる資源リソースを活用し、お客様の最良パートナーになれるよう邁進していきます。

ここ数年、情報通信作業は大きなパラダイムシフトを迎えています。人工知能/IoT/電気自動車/コネクテッドカーなどの新しい分野が構想段階から実現段階への移行に合わせ、当社もビジネスモデルを最適化する必要があり、当社にとって最も挑戦しがいのある課題となっています。さらに、グローバルにおいて、多くのM&Aが急速に行われ急速に変化する環境の中、いち早くソリューションプロバイダーとしての基盤を固め、優位な競争力を持つことも重要だと考えています。

私達はイノベーションが唯一の前進の鍵であると信じています。お客様と向き合い、お客様のニーズに対応していくことが必要と考えます。我々一人一人は、この世界を便利で、環境に優しい世界にしていく責任があり、当社の専門的な技術と強力なグローバルサポートによる新たな技術が、この共通目標の達成に有効であると考えています。

「次代の波を乗り切ろう」：我々インド法人は、「情熱」と「責任」と「革新」を進める事により、持続可能な成長を実現するモデル企業を目指します。

■ 基本情報

社 名：TOYOTA TSUSHO
NEXTY ELECTRONICS
INDIA PRIVATE LTD.

住 所：Office No.108-111, Plot no.
A-2/3/4, Tower 1, HB Twin
Tower, Netaji Subhash Place,
New Delhi 110034, India

連絡先：TEL: 91-11-4563-9207

資本金：インドルピー 500,000

設立：2008年5月

従業員数：40人(2018年3月)

営業所：BANGALORE BRANCH

住 所：Sri Anjaneya, No.5, 3rd Floor,
Loop Lane, Off Race Course
Road, Bangalore 560009,
India

連絡先：TEL: 91-80-2337-4674

営業所：MUMBAI BRANCH

住 所：Unit No.1105, "Kailas
Corporate Lounge", Survey
No 1/9A-2(B), Veer Savarkar
Road, Park Site, Vikhroli (W),
Mumbai 400079 , India

連絡先：TEL: 91-22-6694-0568
FAX: 91-22-2517-5812

営業所：PUNE BRANCH

住 所：Office No.409, 4th Floor,
Survey No.116/4 Wallstreet
24, Near Shell Petrol Pump
Mumbai-Bangalore Highway,
Warje, Pune 411058, India

連絡先：TEL: 91-20-2523-0077

■ 特長・強み

インドは様々な文化、宗教、言語のつぼですが、インド人の精神には結束と非暴力主義が根底にあり、世界で最大の民主主義国家であることに誇りを持っています。ムンバイ、デリー、バンガロール、プネーに4つのオフィスを構える当社は、Unity in DIVERSITY (多様性の中の共存) というコンセプトを持つインドを端的に表しているかもしれません。また、それぞれの地域にまたがる結束力が地域的障壁を越え、共通の目標に向かって全てのスタッフが組織的に動き、向上心をもって仕事に取り組んでいます。具体的にはある地域での成功事例を共有し、他の地域でそれを共有することが、事業発展の重要要素のひとつになっています。

当社では、デマンドクリエーション(価値創造)に焦点を置くことで、他社と圧倒的な差別化を計っています。当社は、既に自動車エレクトロニクス分野での上位企業の一社になっています。当社事業の60%以上がOEMダイレクトビジネスであり、我々がお客様と一緒に作り上げたビジネスです。現在当社が取引しているお客様は200社を超えており、その多くのお客様と10年以上の取引があります。この事はまさに当社の一貫したサービスと最高のサポート体制を裏付けるものです。また、プネーとデリーにある充実した設備を誇る設計ラボでは、最新鋭機器や最新技術を用いてお客様向けの技術サポート体制を整えています。

当社のソリューション製品である、二輪向けハンドルパー、ウィンカー、LEDヘッドライト、LED照明/パラスト照明向けドライバーなどは、業界でも長年にわたり広く受け入れられています。ネクスティ エレクトロニクス本社で取り扱っている半導体メーカーに加え、インドでは日系メーカー及び、インドならではの製品群もラインカードとして取り扱っています。我々の設計能力は、お客様への最適なソリューション提供によりベンダー様から高い評価を受け、最優秀アプリケーションエンジニア賞を過去3年間受賞するなど、実績をあげています。また、同様にお客様から我々のサポート体制について、最高の評価を頂いています。当社はインド国内に倉庫を保有し、国内においてインドルピーでの取引、また、外国通貨取引も可能です。さらに、部品供給からトータルソリューション提案へと、お客様に対する当社のアプローチも変化しています。当社は、対象事業分野での存在感を強め、デマンドクリエーション能力を強化し、「CAN DO(やればできる)」という積極的な姿勢で相互成長に向けた新しいパートナー企業との協力により、インド市場での大きな発展を目指しています。



ネクスティ エレクトロニクス本社と会議(デリー)



設計ラボ(プネー)

地域的特長

MAKE IN INDIAと自動車産業

最新の経済調査によると、「Make in India」政策は耐久消費財、自動車(EV)、防衛、薬事、再生可能エネルギー(太陽光発電)にターゲットを絞り、製造関係での2桁成長と、それに伴う雇用機会の創出も見込まれています。また、インド政府は電気自動車の国内生産に向けて自動車産業に注力しており、インドは主要な自動車生産国となる途上にあると言えます。インド国内における自動車関連主要企業も積極的にこの方向に向かっていきます。政府系企業のエナジー・エフィシエンシー・サービス(EESL)はEVプロジェクトに取り組んでいます。第一段階で20,000台の電気自動車の委託を行っており、最近では、2,000箇所の充電ステーションに関する入札も行いました。

Emerging Digital World in INDIA

インドでの携帯電話利用数は1億台を超え、今後数年で5億台に至る見通しです。このような状況下で、「インドのデジタル化」はさらに押し広められるでしょう。インド政府は、政府プロジェクトに関わる契約を保証することで、国内の太陽光発電機器メーカーを支援することも計画しています。過去3年間で、インドの太陽光発電能力は3倍以上となっています。世界の銀行による「事業運営しやすい国」ランキングでも、インドは既に30位ほど順位を上げ、上位100ヶ国に入るまでになりました。これは、昨年のGSTの実施や高額通貨の廃止など、事業運営に相応しい場所となるよう、国の地位を高めるインド政府の努力の成果に他なりません。

MAKE in INDIAの加速

政府は携帯電話、電子機器、テレビなどの輸入に対してはさらに課税し、国内製造業の促進を促しています。エレクトロニクス製造に対するインドの外国直接投資(FDI)も史上最高を記録しました。既に進出している日系企業をはじめ、各企業がインドで新しい製品を大量生産するようになるにつれ、今後、日系ビジネスもさらにインドで発展することになるでしょう。この傾向は、2017年度には日本からの投資が47億USドルにも達していることでも明らかです。

これからのインドは、国内鉄道網の拡大や、プネーやアフマダバードなどの主要都市に展開されつつある地下鉄路線による、スマートシティ計画により交通渋滞が低減され、主要都市のインフラ改善に向けた長期展開を推進することで、さらに大気汚染も軽減されるでしょう。

計画無くして成功なし

よく使われる諺に、「計画無くして成功なし」というものがあります。しかし、これは移ろいやすいインドの政策からすると必ずしも当てはまりません。例えば、当社でも2018年度のLCD事業計画を策定していました。他のパネルメーカーも、「Make in India(インド国内生産)」プログラムに対応して、国内でのテレビパネル製造用のクリーンルームに重点を置いていました。しかし、オープンセル供給に対する10%課税案により、テレビメーカーはその計画の再考を余儀なくされました。



“Make in India” ロゴ



車市場の拡大にともない道路整備が進んでいますが、渋滞の一因になることも

お勧め情報

私達インド人はお祝いをするのに特別な理由を必要としません。

インドには年間を通して、宗派の祝い事が数多く各地にあります。日々の仕事から離れて楽しい時間を過ごすことは、とてもよいフレッシュになります。お互い喜びを共有する感覚は、社員同士の結束と仲間意識を高めてくれます。クリスマス、ディワリー(ヒンドゥー教の新年のお祝い)、誕生日などの行事は、笑顔にあふれた楽しいひと時を共有する素晴らしい機会となり、インド法人には感謝とその喜びを分かち合う精神が社内の至るところにあふれています。一般的に「インドにはクリケットと政治という2つの信仰しかない」と言われており、インドでは、みんながこの2つについてとてもよく知っています。



設立記念日を社員でお祝い



多くの女性が活躍しています



クリスマスの様子(ムンバイ)



ディワリー(ヒンドゥー教の新年のお祝い)の様子(ムンバイ)